

第 141 回 JUNBA 理事会議事要旨

1. 日時・場所

日時：2019 年 5 月 14 日（火）13:00～16:00

場所：Hakone Estate and Gardens

2. 出席者

【理事】名古屋大学（神山会長）、大阪大学（田谷理事）、九州大学（松尾理事）、奈良先端科学技術大学院大学（三宅理事）、早稲田大学（會沢理事）、桜美林大学（丸山理事）

【事務局】JSPS（田宮事務局長、箕浦、渡邊、石村、宮田）

【オブザーバー】なし

3. 議事

議事に先立ち、第 140 回理事会議事要旨案を了承した。

【 審議事項 】

(1) JUNBA サミット 2020 について

事務局から、資料 2 に基づき、会場の選定、サミットに向けての役割分担及び全体スケジュール、セッション内容について概要の説明があった。その後、各事項について以下のとおり議論した。

1. 会場の選定について

事務局より、前回理事会での審議の結果、David Brower Center および San Francisco Airport Marriott Waterfront の 2 会場に絞った会場予算案について説明があった。その後、投票の結果、会場は過半数票を獲得した San Francisco Airport Marriott Waterfront に決定した。投票数は次のとおり：David Brower Center 1 票、San Francisco Airport Marriott Waterfront 6 票。

これを受けて、San Francisco Airport Marriott Waterfront での開催経費を反映した 2019 年度事業計画及び収支予算案を総会に諮ることとした。

なお、本理事会の席上で、名古屋大学 2000 ドル、九州大学 2000 ドル、早稲田大学、桜美林大学、奈良先端科学技術大学院大学の各理事校よりそれぞれ 1000 ドルの支援をいただけることの報告があった。サミット後にレセプションをもうけるかどうかについては、実際の参加者数により決定することとなり、現時点では保留扱いとなった。

（補足：理事会後に、九州大学より計 3000 ドルのご支援の申し出をいただいた。なお、5 月末を回答期限としていた理事校を除く正会員校からの賛助金については、申し出はなかった。）

2. サミットに向けて

事務局より、各理事の役割分担（準備段階及び当日含む）について説明があり、合意を得た。なお、全体スケジュール案に沿って各理事がそれぞれの具体的な担当事項やタイムラインを確認し、次回理事会で共有することとした。

3. 午前セッションについて

松尾理事より、大学の寄付事業に関するコンサルタント1名を東海岸より招へいし、併せて州立大、私立大のファンドレイジング担当者をそれぞれ1名ずつ招へいする案が提示された。具体的な講演者の所属候補校としてUC Berkeley、San Jose State、Santa Claraの3校を挙げられた。また、講演内容について、日本にない発想や取り組みを中心に話してもらうのはどうかという提案があった。

丸山理事からは、はじめにファンドレイジングの理論に関する講話、次に具体的な事例に関する講話をもうけてはどうかという提案があった。また、米大学が日本を対象にファンドレイジングを行う際の工夫等を盛り込んでどうかという提案があった。

さらに事務局より、優れたファンドレイジング活動を行っている大学を評価するウェブサイト(CASE)の紹介があり、米国内の公立・私立の別や大学規模別に高評価の大学名を検索できる旨の説明があった。

こうした議論をふまえ、松尾理事推薦のコンサルタントについては、予算の観点から無償で講演していただける場合のみの招へいと、同氏へのコンタクトや講師依頼の進捗状況は松尾理事より共有いただくこととなった。今後の流れとして、6月末を最終期限として各理事及び事務局が候補校を中心に米国大学のファンドレイジングの状況を調査し、次回理事会にて中間報告を行うこととなった。

4. 午後セッションについて

3. 午前セッションの米国大学の調査に加え、日本の大学のファンドレイジングの状況についても、各理事がそれぞれの所属機関を調査し次回の理事会にて中間報告を行うこととした。調査票に記載する調査項目は日米大学で同内容に統一し、神山会長及び松尾理事の提案により、失敗事例や、講演者決定の際の参考となるような調査者の所感を追加することとなった。なお、理事校を除く正会員校及び東京大学、慶應義塾大学については、事務局より調査票を送付し6月末までに回答を依頼することとした。日本の大学へ第二報を発信するタイミングから、調査の最終期限は日米大学ともに6月末とした。

5. その他

三宅理事より、JUNBA 広報活動の一環として、広島大学高等教育研究開発センターを通し、サミット2020の内容を論考として高等教育研究叢書に投稿する提案があった。章立てや各理事の役割分担は三宅理事の主導で行うことで合意を得た。

(2) その他

審議事項は特になし。

【 報告事項 】

(3) 各拠点からの活動報告

丸山理事、神山理事、松尾理事より、米国へ留学する学生の数が減少している旨の報告があった。

(4) その他

事務局から次回以降の理事会の日時と場所の確認及び、9月以降の理事会の日程調整予定について連絡があった。

以上